

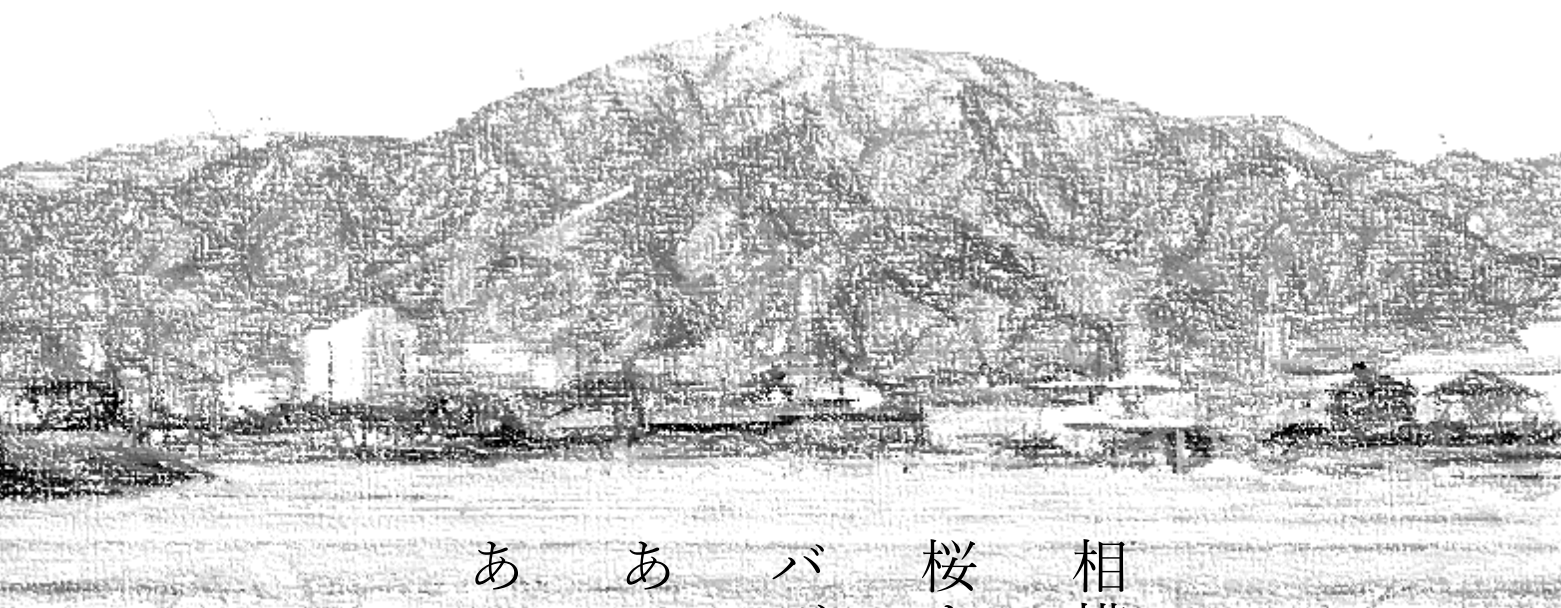
# みどり通信

第43号  
2025年4月1日

2025

4

令和7 卯月



相模原

桜まつり

バザーの思い出

あの人この人

あの子この子



# 「和」の読み方

昭和

平和

和やか 和む

和らぐ

和やか(にこやか)

和歌 和紙 和食

和える

和子 和夫

# 「小田原城」

秋野文子

35年、前のことになる。

相模原に住み、息子が通信制高校に通った。

拒食症など訳ありの子、若い頃貧困で高校進学を断念した人が通った。スクーリングは月2回、他は郵便。レポートが毎週3回あり郵送していた。まさか、メールでの提出をする学校が30年後に訪れようとは思わなかった。

小田原城には何度もロマンスカーに乗って行った。

天守閣に登ると、眼下に相模湾、右手に伊豆半島、左手に三浦半島が広がる。それは一時であっても気分は良いものだ。

城址公園の中は季節に寄って、いろいろな花を楽しめる。

春はソメイヨシノの桜が咲く。私は何故か小田原城の桜を見たことがない。残念だ。

## 「ホームの誕生日会」

秋野文子

3月生まれの人3人の誕生日会。101才、86才、81才。

歌 春の小川、ふるさと。

お八つ 鳩サブレ、おでん。

コロナ騒動も一段落して、しばしの楽しみ。

# 「渾」

ふあ爺



渾という字にはいろいろな意味があるが、この字を含む熟語で一番お目にかかるのは

「渾然一体」

だろう。

辞書をひくと…

「異なるものが分化せず、いくつかのものが溶け合って区別なく全体が一つにまとまっているさま。」

…とある。

この四字熟語の出どころは、前漢の高祖の孫で淮南王の劉安が編著した哲学書、淮南子卷七精神訓。

一体なのだから分裂はしておらず、一体なのだから統合もされていよう、だがその有様、状態は、「渾」だというのだ。

渾には「濁る」という意味もあるから、「渾然一体」には、「そんなにすっきりしたもんじゃないがひとつになっている」というニュアンスがある。こころの自然な状態は、まさに「渾然一体」だ。

こころを整然としたものにしたいという欲求は持ちがちであるが、儒教のようなものはこころの柔軟性を奪う。

淮南子は老荘思想。

「渾」は水がこんこんと湧き出る様も表す。自由な精神からは知恵が無尽蔵に湧き出てくる。

(書「渾」 秋野文子)



桜の古木

## 編集後記

4月は新年度の  
始まり。

カレンダーも4  
月始まりのものも  
ある。

気負い込みでな  
く験を担ぐなら、  
巳年の4月は脱皮  
の年にしたいもの  
だ。

秋野

みどり通信43号

midori2shin@gmail.com

